

衛生教育（カンボジア）

トイレや水を常にご利用できる学校環境を目指して



JHPは校舎建設と同時にトイレ、給水設備（井戸、給水タンク、ため池）の支援を行っています。2017年度は、トイレ8棟26室、井戸1基、給水タンク8基を支援し、トイレ3棟を補修しました。各学校には衛生教本を配布し、建設前の協議等で維持管理について説明しています。

井戸水に関して、ヒ素、大腸菌などの有無を検査を行い学校に報告しています。カンボジアの小・中学校、高校で、飲料水を確保できる学校は約50%、トイレがある学校は約70%にとどまっています。子どもたちの学びを支えるために、衛生環境の整備は欠かせません。



衛生支援後の生徒の声

私はポン・ヌソンと言います。小学6年生、12歳です。チサラランセイ小学校の全生徒を代表して、校舎、校舎周りの通路、トイレ4室の修理、筆記用具の寄贈をしていただいた支援者に心より感謝します。私たちはこのような素晴らしい寄贈の品々をいただけて本当に幸せです。全生徒を代表して、勉強を一生懸命すること、寄贈の品々を長く使えるように大切に使うことを誓います。ありがとうございます。



衛生に関するアンケート実施



井戸と給水タンク、トイレ補修の支援を行ったチョームマロウ小学校にて、衛生に関する説明と、上級生の5～6年生37人を対象としたアンケートを行いました。その結果、5～6年生の70%以上の家庭にはトイレが無いことが分かりました。トイレは学校に通うようになってから利用する生徒が多いため、学校での衛生指導は必須となります。トイレの必要性は37名全員が理解しており、80%以上の生徒が1日2回使うことも分かりました。

支援前は特に乾季に水が不足していたため、90%以上の生徒がトイレで十分に水が使えなかったことが分かりました。「井戸は壊れていて、トイレには水が無く、菜園用の水も、手や足を洗う水もありませんでした。」「ゴミ拾いの後に手を洗うための水がありませんでした。」という回答もありました。カンボジアの小学校のトイレは、個室の中の水槽に溜めた水を手桶を使って自分で流す簡易な仕組みであり、トイレ裏側の便槽に汚物を流すために常に一定の水が必要です。この水が不十分であったことが問題であり、手洗いや植物への水やり等にも影響があったことが分かりました。

